

【論文を作成するにあたって】

校内研究の部 教科・領域名

(研究主題を記入)

— (副主題を記入) —

〇〇〇立〇〇〇学校 校長 〇〇 〇〇
研究代表 職名 〇〇 〇〇

- ・研究主題には、研究の目指す姿（ねらい），研究の対象領域・分野，研究の方法（手立て）を書く。

A

B

C

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 6

(例) 自然体験から問題を見付け解決する活動を通して，自然を愛する心情を育てる指導の工夫

C

A

—小学校6年生理科の生き物のくらしと自然かんきょうの単元の指導を通して—

B

- ・個人・グループ研究の場合は、「主題」や「主題設定の趣旨」を省略し、「研究の目標」から書いても良い。その際は、右のように項立てを変更して書き進める。

- 1 研究の目標
- 2 研究の目標設定の趣旨
- 3 研究の仮説

1 主題設定の趣旨

- ・研究の目的・意義を中心に書く。
- ・問題の背景・現状，意義などを書く。
- ・どのような方法で研究を進めるかという見通しについて書く。

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 7

2 研究の目標

- ・研究対象の分野・領域を限定し焦点化して，研究目標を明確にして書く。
- ・研究主題で示した育成したい資質や能力，内容，方法を基に，研究で明らかになることを明確にして書く。

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 7

(例) 読むことの学習において，表現を取り入れた言語活動を通して，

(内容：研究対象の分野・領域) (方法：手立て)

意欲的に学習に取り組み，的確に読む力が身に付くことを，実践を通して明らかにする。

(目的：目指す姿)

3 研究の仮説

- ・研究の見通しあるいは予測に当たるもので，ある程度の客観性をもつ結果についての仮の判断について書く。

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 8

(例) 説明的文章において，表現活動を取り入れ，挿し絵や写真などと言葉を関連させながら

(場，内容等) (手立ての工夫)

読ませれば，自分の考えをもつ力を育てることができるであろう。

(ねらい，目指す児童生徒像)

【論文を作成するにあたって】

4 研究の内容と方法

5 研究の実際

- ・実践記録や報告のみではなく、仮説の**検証**や**考察**等について書く。
- ・研究の目標に近づいたかどうか変容を考察して書く。

〈検証とは〉

- ・仮説の有効性を調べることであり、仮説として立てた手立てを用いたことにより、予想する結果どおりに児童生徒が変容したかを確かめること。

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 9

〈考察とは〉

- ・子供の変容状況を捉えたもの。
- ・実践と子供の変容との関連性を明らかにしたもの。
- ・研究の手立ての有効性を吟味したもの。

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 10

6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ・研究の実践と結果の処理によってどんなことが分かったかを書く。

(2) 今後の課題

- ・何が未解決の問題として残されたかを書く。

※参考「研究計画の立て方・研究の進め方」p. 10

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説〇〇〇〇編』 平成20年〇月 〇〇出版 p. 5
- (2) 〇〇 〇〇編著 『〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇』 2011年 〇〇出版 pp. 46-47
- (3) 教育〇仙太 「言語活動の充実に関する研究」『研究紀要 第33号』 平成25年3月 佐賀県教育センター p. 35

《参考文献》

- ・佐賀県教育委員会 『平成24年度佐賀県学力・学習状況調査報告書』 平成24年〇月
- ・〇〇 〇〇 『〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇』 2009年 〇〇書房

《参考URL》

- ・佐賀県教育センター 『授業に役立つ実践研究』
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/kenkyu-chosa_top.html

詳しくは「研究計画の立て方・研究の進め方」をご覧ください。

http://www.saga-ed.jp/shien/ronbun/pdf/download/02_kenkyu.pdf